

台湾の有事を想定

「日本が防衛の要」

米シンクタンクが報告書

12
23期

米有力シンクタンクが中国の台湾侵攻を想定した模擬実験（シミュレーション）を重ね、9日に報告書を公開した。想定した大半の条件下では、米国や日本の支援を受けた台湾が中国軍を撃退するが、「高い代償を伴う」と指摘。在日米

軍を置く日本を台湾防衛の「要」と位置づけ、外交・



昨年、米ワシントンの戦略国際問題研究所（CSIS）で行われた台湾有事のシミュレーション＝CSIS提供

軍事上の結びつきを深めるよう提言している。

米戦略国際問題研究所

（CSIS）が、昨年に進

めた24回のシミュレーショ

ンをまとめた。想定では、

2026年に中国が台湾

に侵攻する。中国軍がは

じめの数時間で台湾の海軍

や空軍の大半を攻撃した

後、台湾を包囲し、数万人

の兵士が上陸すると仮定し

た。台湾が持ちこたえ、米

軍が派遣されると、中国は

台湾の侵攻に失敗したとい

う。

この防衛戦争の「要」と

されたのが日本だ。報告書

は「豪州や韓国など他の同

盟国も台湾防衛において一

定の役割を果たすが、日本

こそが要だ」と強調。報告

書をまとめた一人で米マサ

チューセツツ工科大学（M

IT）国際研究センターの

エリック・ヘギンボサム主

席研究員は「グアムの米軍

基地では地理的に遠い。作

戦において、日本国内の基

地に代わるものはない」と

話す。

日米安全保障条約のも

と、米国が在日米軍基地を

「事前協議制度」によって制約が課されている。「最も起こりうる」シナリオでは、日本は米軍が日本国内の基地から台湾防衛に向かうことは認めるが、自国が攻撃されるまでは自衛隊を派遣しないと想定した。

こうした状況下で中国の台湾侵攻は失敗に終わった

が、撃退の代償も大きかった。

米軍の空母2隻のほか、米軍や日本の自衛隊の艦船数十隻、航空機数百機、要員数千人が失われる

との結果が見込まれた。報告書は「こうした損失は、米国の世界における地位を

数年にわたって傷つけるだろう」と予測した。

こうした結果を踏まえ、報告書は、日本の基地で航空機を攻撃から守るため、強靱性を高めることが必要だと提案する。さらに有事に備え、日本の民間飛行場の利用を確実にすることも必要だと訴える。今後、日米政府間でこうした議論が

実際に進む可能性があり、ヘギンボサム氏は「政府間で計画の策定が必要となるだけでなく、国民世論のレベルでも、現実的な議論をすべきだ」と語る。

（ワシントン＝清宮涼）